

令和8年産

稲作情報 No. 5 津南版

令和8年8月4日発行

十日町地域農業振興協議会

JA 魚沼、十日町市、津南町、

NOSAI 新潟魚沼支所、

十日町農業普及指導センター

LINE で情報発信中！

・水稻栽培情報
・研修情報など

友達登録は
こちらから

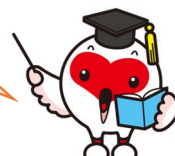


適期収穫と丁寧な乾燥・調製で高品質米に仕上げましょう！

- 落水は出穂後 25 日以降とし、**異常高温時は可能な限りかん水**しましょう。
- 出穂期が早まっており、収穫時期も早まる見込みです。出穂期後の積算温度を参考に、**収穫計画を早めに立て**ましょう。
- 乾燥・調製作業時の胴割れ粒、未熟粒などの**人為的な品質低下を防ぎ**ましょう。

1 出穂以降の水管理

落水時期が早いと
整粒割合が低下するよ！



(1) 基本の水管理

- 落水時期が早いと白未熟粒等が増加し、品質が低下します（図1）。
出穂後 25 日間（高温登熟が予想される場合 30 日）は溝や足跡に水が残って土が湿っている状態を保ちましょう。
- 常時湛水は、根を傷め、倒伏にもつながるため避けましょう。

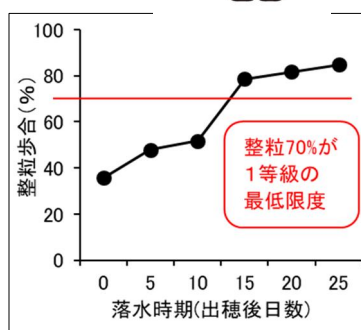


図1 落水時期と整粒歩合の関係

(2) フェーン現象による異常高温時の水管理

- 天気予報等により、**事前にフェーン現象の発生日を把握**しましょう。
- 用水が確保できる場合は、地域の用水計画に応じて**高温の前日までにかん水**しましょう。
- 限りある用水を有効利用するため**、かけ流し等は行わず、**地域全体に水が行き渡るように**しましょう。

2 適期収穫のめやす

8月は暑くなる見込みのため、
早めの準備を心掛けましょう！



(1) 収穫適期の予測

- 「**収穫適期のめやす（出穂期後の積算温度）**」や地域に設置されている「刈取適期判定器」を参考に収穫適期を予測し、作業計画を立てましょう（表1、2）。
- 積算温度（日平均気温の合計値）による収穫適期はめやす**です。生育ボリューム、葉色、地力、標高等により適期は異なりますので、必ずほ場で**籾の黄化率を確認**しましょう。
- 出穂期後 10 日間の最高気温の平均が高温（概ね 33 度以上）だと胴割れ粒の発生が増加します。**高温で登熟した場合は、2 日程度早く（積算温度で-50℃）収穫**しましょう。

表1 収穫適期のめやす（出穂期後の積算温度）7月30日現在

移植時期	品種	出穂期後の積算温度		出穂期 (例)	収穫適期のめやす		【参考】 前年並の 気温の場合
		通常	高温登熟		通常	高温登熟	
5月中旬植	五百万石	975℃	925℃	7月16日	8月25日	8月23日	8月24日
	つきあかり	1,100℃	1,050℃	7月19日	9月3日	9月1日	9月1日
	こがねもち	1,000℃	950℃	7月22日	9月3日	8月31日	8月31日
	コシヒカリ (標高100~200m)	1,000℃	950℃	7月30日	9月9日	9月7日	9月7日
5月下旬植	コシヒカリ (標高300~500m)	1,000~ 1,050℃	950~ 1,000℃	8月5日	9月19日	9月16日	9月16日
	にじのきらめき	1,100~ 1,200℃	1,050~ 1,150℃	8月8日	9月29日	9月26日	9月24日
	新之助	1,050℃	1,000℃	8月9日	9月27日	9月24日	9月23日

注 コシヒカリ(標高100~200m)は標高170m、それ以外は標高452mの気温により算出

注 参考は、登熟期間が前年並の登熟気温で推移した場合の試算値

「出穂期後の積算温度表」は普及センターHP（下記 QRコード）や JA 窓口で8月4日から公開します（毎週火曜更新）。



表 2 刈取適期判定器（積算温度計）の設置箇所

平坦地 (積算温度1,000℃)	外丸 河原	正面原	十二ノ木原
	加用	中深見	今井
	羽倉		
山間・台地 (積算温度1,000～ 1,050℃)	午肥原	反里口原	中子
	米原	赤沢	大井平原
	上野		



図 2 刈取適期判定器（積算温度計）

(2) 収穫適期の判断

- 黄化粃の割合が 85～90%になった頃が収穫適期です（図 3）。
- ※茎葉の色は栽培条件や品種により異なるため、収穫適期は粃の色で判断。
- 刈り遅れは胴割粒・着色粒等の増加による品質低下を招きます。
- 大規模生産者は、所有施設の能力に合わせ、収穫適期よりも早めに収穫を開始しましょう。

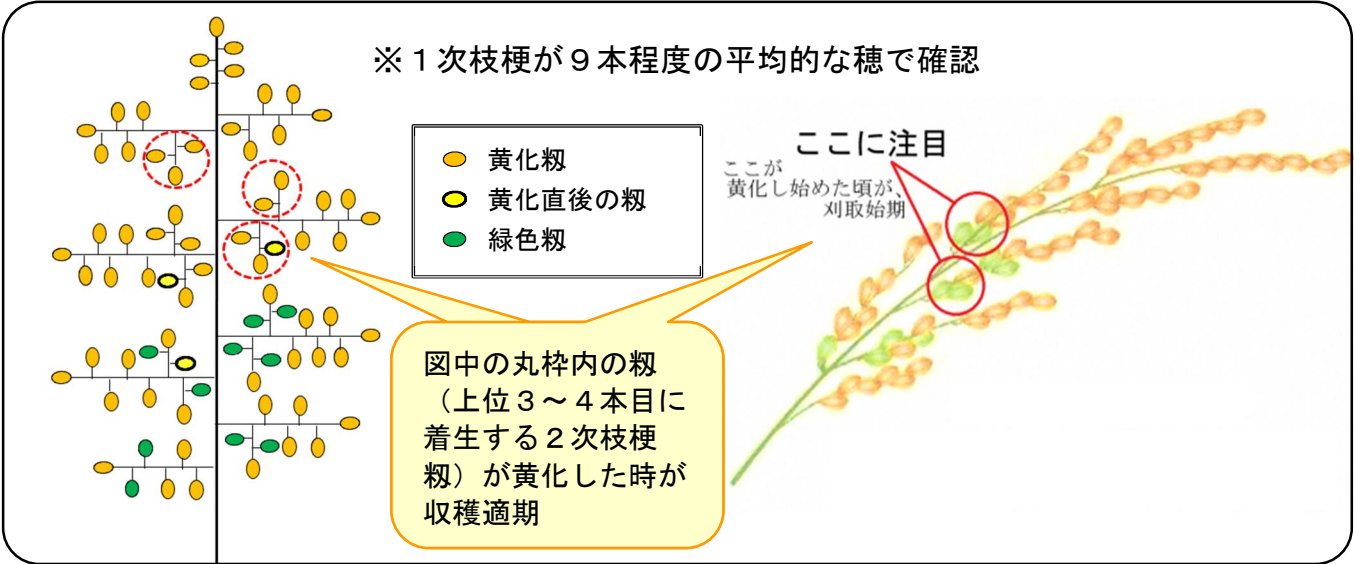


図 3 収穫適期の黄化粃率 85～90%の状況（富山県、石川県）

3 乾燥・調製

(1) 乾燥

- 仕上げ水分 15%を目標に乾燥します（水分 14%以下になると食味は急激に低下します）。
 - 乾燥温度や乾燥速度に注意し、食味低下及び胴割粒発生を防止しましょう（表 3、4）。
 - フェーン現象時の収穫や倒伏ほ場では、粃水分のばらつきが大きくなります。
- 水分のばらつきが大きい場合は、水分 18～20%で乾燥を一旦停止し、半日程度貯留して水分ムラを解消した後、再乾燥を行いましょう。また、貯留のために乾燥を一旦停止する際は、通風循環で穀温を下げてから停止しましょう。

表 3 初期水分と乾燥温度

初期水分	乾燥温度
24%	50℃以下
28%	40℃

表 4 粃の状態別毎時乾減水分

粃状態	毎時乾減水分
通常	0.8%
立毛胴割粒粃有	0.5%

成熟期以降に乾燥と降雨が繰り返された場合は、胴割粒が発生しやすいため、送風温度を低めにしましょう！

(2) 調製

- 米選機のふるい目は1.90 mm以上を使用し、適正な流量で選別しましょう。
- 作業前にゴムロール間隔や流量を確認し、粳すりは粳の温度が常温近くまで下がってから行いましょう。
- 雑草の種子等が混入しないように、雑草は刈取前にほ場から除去しましょう。
- ※特にクサネムの種子は調製過程では取り除けないため、必ずほ場で除去しましょう。
- 色彩選別機を活用して斑点米や着色粒(図4)を除去し、高品質米に仕上げましょう。
- 稲こうじ病の病粒が混入した粳は、粳すり前に粳粗選機(ふるい目2.7mm)を使うと、病粒の約70%を除去できます。また、インペラ式粳すり機を使用すると病粒の混入を抑制できます。



図4
着色米(左)
斑点米(右)

最後の仕上げで格落ちにならないよう丁寧に調整しよう！



表5 主な人為的格落ち要因

格落ち要因	主な原因
粳の混入・肌ずれ	ゴムロール間隔や流量の調整不足
胴割れ粒	刈り遅れ、急速乾燥
青未熟粒・未熟粒	早刈り、米選機への流量の調整不足
変質米・カビの発生	高水分粳の長時間の貯留、乾燥不十分
異種穀粒・異物の混入	倒伏、機械の掃除・調整不足

4 来年に向けた土づくり

(1) 地力の推進

- 稲わらの秋すき込みは、稲わらの分解を促進するため、地温が高い10月中旬までに、浅めに行いましょう。
- 収量の増加につながる(図5)とともに、春すき込みに比べて根腐れの原因となる硫化水素などの発生が軽減されます。
- 粳殻はケイ酸を多く含むため、土壌へ還元しましょう。
- 水田から得られる粳殻(約120kg/10a)を全てほ場に還元すると、ケイカル80~100kg/10a施用と同等の効果が期待でき、土壌物理性(通気性や透水性)も改善します。
- ※粳殻を一度に多量に施用すると、窒素飢餓や土壌の強還元により減収の危険があります。
- ※稲こうじ病、ごま葉枯病等が多発生したほ場の粳殻は、伝染源となるため施用しないでください。

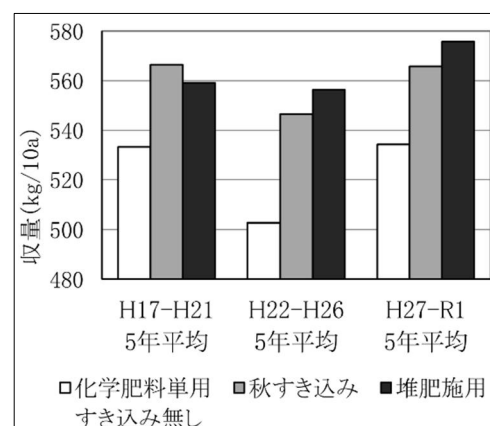
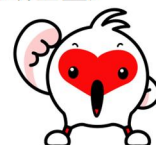


図5 有機物長期連用によるコシヒカリ収量推移 (H17年~R元年、農総研基盤)

稲わらの秋すき込みは、堆肥と同等の効果があるよ！



(2) 漏水対策

- 干ばつなどによりほ場に亀裂が入っている場合、漏水によって来年の栽培に悪影響が生じる恐れがあります。

(代かきに必要な用水量が増加、除草剤の処理層が保てず雑草が多発生など)

- 稲刈り終了後に漏水箇所を点検し、年内に漏水対策を実施し、漏水防止効果を高めましょう。

<例>・亀裂の入っている畦畔際をトラクターで何回か走り、タイヤで鎮圧する。

- ・秋耕後に雨水等を湛水し、2回以上の丁寧な代かき(秋代かき)を実施する。
- ・ベントナイト(土壌資材)を亀裂の入った畦畔際1m間に1kg/m²を投入し、耕うん・代かきする。